Photo ふなばし

とくしゅう

友好交流協議締結5周年記念

親善使節団300人 西安市への旅

友好親善使節団を笑顔で歓迎してくれた西安市の子供たち

MOVE Ⅰ スポーツ健康都市宣言から10年
スポーツ健康の祭典

MOVE Ⅱ 若手後継者も充実
ふなばしの都市農業

- 市政トピックス
- 街角ホットニュース
- WE ARE IN FUNABASHI
- アトリエ訪問
- サークル通信

まちなかの文化財／ふなばしの民話
ペットインタビュー

船橋特産の短根ニンジン

vol. 58
広報ふなばし写真版

スポーツ健康都市宣言から10年

MOVE I— スポーツ健康の祭典

鹿島アントラーズの石井正忠選手から大橋和夫市長に
サッカーボールとユニホームが贈られました

船橋市一輪車協会のチビッ子たちに
よる華麗なデモンストレーション

10月10日（体育の日）運動公園など市内５会場で船橋スポーツ健康の祭典が行われました。人もまちも健康であってほしい、そんな願いを込めて市は、昭和58年10月スポーツ健康都市を宣言しました。以来スポーツの盛んなまちとして全国的にも知られるようになりました。当日は、子供からお年寄りの皆さんまで楽しめるよう、遠投やゲートボール大会など工夫を凝らした催しがいっぱい。中でもメーン会場となった運動公園では、Ｊリーグでおなじみの鹿島アントラーズの選手の皆さんによるエキシビジョンも行われ、大盛況となりました。来年１月13日には、習志野台に建設している総合体育館も完成、市民の皆さんが気軽に利用できるスポーツ・文化活動の拠点となります。

巨大なお鍋の豚汁に大喜び（法典地区祭）

若手後継者も充実

MOVE Ⅱ — ふなばしの都市農業

船橋では、北部の農業振興地域を中心に、各地で収益性の高い都市近郊農業が営まれています。市全体の約20%（約1600㌶）に当たる農耕地で、野菜や果樹、畜産、花など様々な農産物が生産され、年間の農業生産額は100億円を超えています。その内70%が野菜の生産で、品目別にみるとホウレン草が全国で第３位、ニンジンが第８位、ネギとキャベツは第14位など、野菜の生産地としては全国で第25位、千葉県では第４位に位置しています。

また、市内の農家は約1600戸で全体の１%以下となっていますが、農家の７割は後継者が確保されています。さらに、船橋の農業後継者団体の活動は全国的にも有名で、たくさんの若手後継者が、熱心に将来の農業経営に取り組んでいます。

キャベツの収穫に忙しい岡庭一美さんと夫妻（三咲５）

とくしゅう

友好交流協議締結5周年記念 親善使節団300人 西安市への旅

10月25日の夕方、友好親善使節団が宿泊先のホテル唐華賓館に到着すると、80人近い西安の子供たちが元気な笑顔でお出迎え。旅の疲れも一瞬のうちに消え去りました

御点前を披露する船橋市茶道連盟の皆さん

唐代芸術博物館で開催された記念事業では船橋市茶道連盟の皆さんがお茶でおもてなし。民族衣装をまとった西安の皆さんも初めての抹茶を楽しんでいました

船橋市美術連盟の皆さんによる絵や書の展示

友好交流5周年を記念して建立された「友情無限」の石碑。大橋和夫市長は「子々孫々まで両市の友情が無限に広がることを祈っています」と力強くあいさつ（慈恩寺跡庭園）

祝いのために鳴らされた爆竹の興奮も覚めやらぬなか、友好交流5周年記念の石碑に掛けられた深紅のリボンが引かれると、刻み込まれた「友情無限」の赤い文字が鮮やかに浮かび上がりました。大橋和夫市長と崔林涛市長は、末永い友情を誓い合うように、お互いの手を何度も力強く握り合っていました。

船橋市と中国西安市が、両市の交流を約束した「友好交流促進合意書」に調印して今年で5周年。これを記念して、大橋市長を団長とする友好親善使節団279人が、10月25日から10月29日まで西安市を訪問しました。

一行は、現地で記念碑の除幕を行ったり、記念式典の開催や文化、スポーツなどの交流を通じて、西安市民と言葉の壁を超えて心温まる友好を深め合いました。また、日中友好議員連盟の船橋市議会議員19人も合流。過去にこれほど大勢の公式訪問団が西安市を訪れたことはなく、式典などの会場をはじめ、ゆく先々で手厚いもてなしを受けました。

シルクロードの起点としても有名な西安市は、かつては長安とも呼ばれ、過去2000年以上に渡り中国の歴代王朝と共に栄えてきました。現在人口は、約660万人。今も、この地方の政治・経済・文化の中心都市として繁栄を続けています。

西安市との交流は、昭和57年に張鉄民西安市長（当時）一行が船橋市を視察のために訪れたのがきっかけでした。翌昭和58年には、市初の公式使節団80人が西安を訪問。昭和63年には「友好交流促進合意書」に調印し、文化、スポーツなどの分野で交流を進めていくことに合意しました。

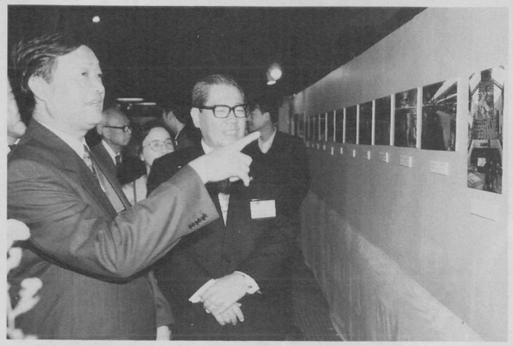
それから5年。船橋市では、西安市から気功の先生を招いて講習会を開いたり、国際親善囲碁大会を交互に開催するなど、積極的に市民レベルの交流事業を行ってきました。

今回、記念碑に刻まれた「友情無限」という文字は、西安と船橋の友情が子々孫々まで無限に広がるようにという願いを込めて、大橋和夫市長が考え出した言葉です。この言葉をキーワードに、これからも船橋市は積極的に国際交流を進めていきます。

友好交流5周年記念事業が唐代芸術博物館で開催され、大勢の両市の皆さんが詰め掛けました

気功発祥の地である戸県の重陽宮では、現地の先生の指導で気功を練習

記念祝賀会ではばか面が大人気



船橋市写真連盟の皆さんは、船橋市を紹介する写真展を開催

工藤紀夫九段、安藤武夫六段などの皆さんによる指導碁

西安市民の重要な交通手段は自転車。中国では昼食を自宅で食べる習慣があるので、昼にもラッシュがある

西安市の中心は約13キロの城壁で囲まれている

西安まではチャーター機で往復

ホテルの中庭では毎朝太極拳が行われていました

西安の市街地からバスで約1時間半、ここ戸県の重陽宮は気功発祥の地です。念願の地を訪れ本場の気功を学んだ気功団の皆さんは、とても感慨深げでした

国際親善囲碁大会。今回は西安市が勝ちました（西安体育場）

卓球の親善試合（西安体育場）

両市共催の記念祝賀会で日本の調べを披露する船橋市三曲協会の皆さん

友好親善使節団が宿泊した唐華賓館。このホテルならではの静けさがある

西安市のシンボル大雁塔▶

記念事業で生け花の実演を行う船橋市華道連盟の皆さん

まちなかの文化財

高根禅寺（高根町）

県道船橋・取手線沿いの深緑に覆われた小丘。その木の間越しに何やら寺社らしき姿が覗けて――そこは秋葉神社、新しい神楽殿、大師堂の三つが並んで建っている。短い石段を上がってみると、藪の中に「運勢ハ電力なるぞや」以下の、先達の言葉を刻んだ怪碑とでもいいたい石柱なども立ち、何だか次第に浮世離れした気分に陥ちていく。これは早々に退散した方が無難だわい。

曹洞禅の高根寺は小丘の麓にある。背後に田園風景が展がる低地に建つので、台地上の観行院を〝上寺〟、対してこちらは〝下寺〟と呼ばれたりするそうだ。

何たって山門が清々しい。二重棰の木口に塗られた白が美しく、容易に住職さんご一家の心映えを偲ばせるものがある。但し、といったら変かも知れないが、門前、右に享保十六年の六地蔵、左に南無阿弥陀仏、南無大師遍照金剛、普門品千巻供養塔と、三基の石碑が建っていて、こうなると宗派は判じ難い。これまた仏教の懐の深さと解しておくべきか。

住職さんはさすが禅僧、少しも意に介する所なぞないのがいい。生死事大、無常迅速ですぞ。早寝早起が長寿の秘訣。何事も無理はいけませぬぞと懇々と諭され一刻妄念を去る。眼を転じ本堂前の老椎を眺める。何と八百余歳と。

（文・大木 勲）

樹齢800余年の老椎

門前の左に並ぶ3基の石碑

市政トピックス

身体障害者 福祉作業所「太陽」 福祉ホーム「若葉」 10月20日にオープン

静かな田園に囲まれた福祉ホームと福祉作業所

10月20日、二和西5丁目に身体障害者福祉作業所「太陽」と福祉ホーム「若葉」がオープンし、記念式典が行われました。あいさつに立った大橋和夫市長は、「待望の施設が完成し、ご協力いただいた皆さんに感謝します。今後も『福祉と緑の都市宣言』に基づいて、障害を持つ方やお年寄りを大切にするまちづくりを目指して、一層の努力をしてまいります。」と話しました。福祉作業所「太陽」は、一般企業への就職が困難な重度の身体障害者の皆さんに、自立に必要な訓練をしてもらおうと設立されたものです。また、身体障害者福祉ホーム「若葉」は、経済的には自立能力がありながら、体の障害によって一般住宅での生活が難しい方のために、自立した生活を送ってもらおうと設立された、公営では県内初の施設です。これらの施設の完成に、皆さんの大きな期待が寄せられています。

大橋和夫市長をはじめ関係者の皆さんによるテープカット

トイレや浴室の天井にはリモコン式の移動装置を完備

海神地区に福祉の複合施設 海神児童ホームオープン

遊戯室では、就学前のチビッ子たちが大はしゃぎ

利用者代表の皆さんによるテープカット

海神地区の福祉の拠点として、児童ホーム、西簡易マザーズホーム、そして老人憩の家を併設した施設が10月23日にオープンしました。子供たちの遊び場として人気のある児童ホームはこれで18館目。県内に66ある（平成5年4月1日現在）児童ホーム（館）の約4分の1が市内にある計算となります。西簡易マザーズホームは就学前の肢体不自由児の機能回復訓練を行う施設で、中央保健センターから移転したものです。また老人憩の家も併設されており、海神地区の福祉の充実につながるものと期待されています。

開設20周年を迎え、記念式典を開催 船橋市夜間急病診療所

夜急診の運営に功績のあった皆さんに感謝状が贈られました

11月20日、船橋市夜間急病診療所の開設20周年記念式典が開催され、功績のあった医師など102人に感謝状が授与されました。この施設は、船橋市医師会の全面的な協力により、昭和48年に県内で初めてスタートし大きな実績を挙げてきました。その後医療センターが開設し、全国初の船橋方式によるドクターカーも発進しました。さらに来年度には医療センターを増床し、救命救急センターもオープンするなど、市民の皆さんの生命を守るため、船橋市の救急医療体制が一段と強化されます。

市民ひとことインタビュー

テーマ 年末年始の予定は？

出産を控えているので家で家族と過ごします。
小野恵子さん（田喜野井5）
瑞歩ちゃん（1歳8か月）

家族で私の実家に帰ってのんびりします。
中丸久美子さん（駿河台1）
裕哉くん（2歳4か月）

一家だんらん、こたつを囲んでのんびり過ごします。
安中邦子さん（古作4）
伸介さん

スキーが好きなのでスキー場に居るかもしれませんね。
川路民生さん（二和西6）

遊びに行きま～す！
小野寛明くん（宮本小5年）
鶴瀬一平くん
座古康弘くん
松本健治郎くん

市民の皆さんの芸術作品が大集合 第31回 船橋市市展

5部門632点の作品が一堂に会した市展

11月12日から23日まで市民ギャラリーで市展が開催されました。31回目を迎えた今回は、5部門に合わせて632点の出品があり、市長賞を初め市議会議長賞、市教育長賞などが決定しました。市長賞に輝いたのは、日本画の部では浅野宇香さん、洋画の部は矢作道子さん、彫塑の部は宮下忠昭さん、工芸の部は下遠野和子さん、書の部は美濃口弘子さん。市民ギャラリーいっぱいに展示された作品は、どれも力作ぞろいで、すべての作品をじっくり見ていると一日では足りないほど。訪れた皆さんも熱心に見入っていました。

千葉県学校給食調理コンクール 二宮小が理事長賞、船橋小が教育長賞を受賞

理事長賞を受賞した二宮小学校の皆さん

毎日心を込めて給食を作っています（船小）

8月に行われた千葉県学校給食調理コンクールで、二宮小学校が理事長賞（準優勝）を、船橋小学校が教育長賞（第3位）を受賞しました。書類選考を通過した12校で本選が行われ、千葉県特産の鰯を使った課題献立と自由献立で、調理の手際の良さやチームワーク、盛り付けなどが審査されました。船橋の小学校給食は、各校に配置された栄養士の独自の献立に従い、熟練した調理員の手で作られています。今回の受賞で船橋の小学校給食が県内最高レベルであることが証明されました。

今に語る日本のこころ ちば・民話フェスティバル

浦安の元漁師、前田さんが語る「海辺の話かずかず」

◀おはなし・わらべうたの「ひろこおばさんの部屋」

10月24日、宮本公民館で「ちば・民話フェスティバル」が開催されました。この催しは、一昨年行われた「国民文化祭ちば 91」で、船橋を会場に開かれた「日本の民話劇」を受け継いだものです。船橋の民話を聞く会の皆さんなどが、様々なスタイルで民話を語り、会場に集まった子供から大人までたくさんの市民の皆さんが興味深く聞き入っていました。

わたしの健康生活宣言 第12回 市健康展

毎日の適度な運動が健康の秘けつです

バランスの良い栄養を

11月3・4日、東部保健センターで第12回健康展が行われました。1階の健康相談や歯のチャレンジコーナー、2階の健康チェックコーナー、3階の介護用品展示など様々なコーナーに連日多くの皆さんが訪れ、健康に対する関心の強さがうかがえました。また、3日には健康運動指導士の荒谷美枝子先生を講師に迎え、「現代人の健康は黄信号」と題した講演・実技も行われました。

第26回 農水産祭

飛ぶような売れ行きの野菜即売コーナ

11月13日、船橋駅北口おまつり広場と、14日中央卸売市場北側駐車場で、農水産祭が開催されました。これは、広く市民の皆さんに船橋の農水産などに親しんでもらおうと毎年開催されているものです。会場では、農水産物の即売やビッグカボチャ重量当てクイズ、玉子のつかみ取りなど様々なコーナーが設けられ、あいにくの天気にもかかわらず、新鮮で安い農水産物を求めて、たくさんの皆さんでにぎわいました。

平成6年度 船橋市老人大学 学生募集

申込み：
1月17日(月)～2月10日(木)
老人福祉課へ願書提出
老人福祉課 ☎36―2353

街 まちかど 角 ホットニュース

皆さんからの情報をお待ちしています。
▷広報課☎㊱2015

白熱した論議が交わされたパネルディスカッション。途中で時間切れとなってしまいました

市民ネットワークフォーラム'93

檄論！スクランブル船橋

10月14日、市民ネットワークフォーラム '93「檄論！スクランブル船橋」が勤労市民センターで開催されました。これは、新しい時代のまちづくりに向けて船橋のあるべき姿や方向性を探っていこうと船橋青年会議所が初めて行ったものです。金子郁容一橋大学教授の基調講演のあと、柴田啓次千葉経済大学教授をコーディネーターに、漫画家の牧野圭一氏、大野博見船橋市助役、山本幸千葉日報社副社長、土屋晋青年会議所副理事長によるパネルディスカッションが行われ、船橋を愛する熱い心が会場を包んでいました。

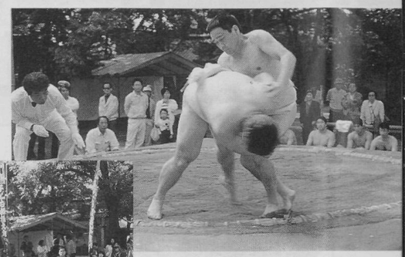
船橋市菊花展

10月22日から11月16日まで、東武百貨店船橋店で、菊花展が開催されました。菊花会の皆さんが冬の培養土づくりから丹精込めて育てあげた盆養206鉢、切り花116本の菊が屋上いっぱいに並べられ、訪れた皆さんの目を楽しませていました。また、毎回菊づくり講習会など色々なイベントも行われ、船橋の秋の風物詩として多くの市民の皆さんに親しまれています。

ミスふなばし、ミスさざんかの皆さんを囲んで撮影会も行われました

恒例の船橋大神宮

けんか相撲・こども相撲


▲大技が飛び出すけんか相撲

◀大人顔負けの取り組みを見せたこども相撲

10月20日、船橋大神宮で恒例のけんか相撲が行われました。当日は午前中に大祭も行われ、御神楽が終わるといよいよけんか相撲の開始。一番相撲、二番相撲、新手二番と次々に迫力満点の相撲が展開され、詰め掛けた皆さんも息をのんでいました。

また、24日には奉納こども相撲も開催され、市内11の小学校から選ばれたチビッ子力士約240人が参加、おとな顔負けの力相撲を披露してくれました。この相撲は、小学校3年から6年までを対象に、団体戦と個人戦で行われ、団体戦決勝では湊町小学校同士の対戦となり、Bチームが優勝しました。

ニュースポーツのペタンク

全国大会で船橋が優勝

11月13・14日、全国ペタンク大会が船橋市で開催されました。ニュースポーツとして注目されているペタンク。全国各地の代表70チームが参加して、熱戦が繰り広げられました。決勝戦は1時間半にわたる接戦の末船橋が勝利を収めました。

遠足に招待され、大喜び

東簡易マザーズホームの園児たち

楽しい遠足にみんな大満足

10月6日、船橋東ロータリークラブ（丹羽道雄会長）が、東簡易マザーズホームの子供たちとお母さん41人を千葉市動物公園に招待しました。たくさんの動物や草花を見たり、用意されたお弁当やお菓子を食べたりと、楽しい1日を過ごしました。

ふなばしの民話

神保ばやしの始まり

文・村上昭三

今年は雨天のため社務所で行われた

これは今から160年も前の話だということです。

その頃、神保新田の村は、厳しい開墾の苦労も去り、農業も安定し、各家々は明るい生活をしていました。

その中に、とりわけ仕事熱心な一軒の家がありました。その家には、利発でよく出来た跡とりの若者がいました。

若者は嫁をとってもよい年頃でした。そこで、両親はいつも口癖のように

「息子に、早く嫁をめあわせたいものじゃ。ええ相手はいねえものかの―」

と言っていました。

しかし、若者は小さい時に重い疱瘡（ほうそう）にかかり、その痕が顔に残ったせいか、全く嫁の話がありませんでした。そこで、両親は若者を連れ、村の名主様の所にやって来て

「名主様、倅（せがれ）にえ嫁を世話して下せえ」

と言いながら、親子ともども頭を下げて頼みました。

これを聴いていた名主様は、若者を見ながら

「よし、よし、分った。わしも心がけてみるから、一層仕事に精を出し、少し待ってみなされ」

と優しく声をかけました。

家に戻った若者は今まで以上に働きました。また、朝に夕に産土様に行ってお祈りをしました。

それから一年も過ぎたある日、名主様の所から、気立てのよい働き者の似合いの娘がいるという話がありました。そして2人はやがて夫婦となり、仲睦まじく一生懸命に働き、一段と裕福な家を築き上げました。

この産をなした若者は、後年ふと若い頃を思い出し

「おらがこのように幸せになれたのは、産土様や名主様のお陰だ。何かご恩返しをしたいものじゃ」

と独り言を言っていました。

そこで、村の人達ども相談して、八木ヶ谷村の祭ばやしを教えてもらい、この村の祭礼でもやることにしました。そしてその金品一切を寄進しました。

これが今日も立派に継承している「神保ばやし」の始まりだということです。

ボランティアグループ訪問④

虹の会

目の不自由な方々とのふれあいを大切に

根気よく積極的に活動しています

昭和63年4月に発足した朗読ボランティアグループで、現在の会員は、30代から60代の女性13人。県立の盲学校や視覚障害の方からの依頼で、テープ図書を年間に300本程度作成しています。また、船橋市からの依頼で「声の広報」の制作に協力したり、有線放送の番組誌の吹き込み、対面朗読など「依頼があれば積極的に参加する」をモットーに、会員のみんなが一生懸命活動しています。「対面朗読は、実際に聞き手を目の前にしているので、反応を直接感じ取れて非常に勉強になります。」「朗読は意外に根気が必要なんですよ」と皆さん。作品の内容を正確に聞き手に伝えられるようにと、毎月第1・3金曜日には和気あいあいの勉強会も開いています。年に1回の親睦と勉強を兼ねた文学散歩やお食事会なども皆さんの楽しみの一つだそうです。

朗読の勉強会

郷土芸能

御神楽

飯山満神明神社の御神楽。大人から子供までたくさんの人でにぎわっていました

10月18日、飯山満の神明神社で神楽が行われました。神楽は形態や内容から数種類に分けられますが、船橋では主に出雲流神楽の神代神楽が行われ、古代神話の天の岩戸の場面、八岐の大蛇を退治し草薙の剣を得た素戔嗚尊や猿田彦の舞などが演じられます。境内にはお年寄りから子供までたくさんの人が集まり、厳粛な舞に見入っていました。市内では他に高根町の神明神社や大神宮、二宮神社で神楽が行われています。

10月20日催された大神宮の大祭。御神楽も行われました

アトリエ訪問

洋画家

近藤俊一さん

（金杉7）

アトリエで制作中の近藤さん

洋画家近藤俊一さんの描く作品は、一度見ただけで多くの人々の記憶に鮮明に残る不思議な力を持っている。リンゴやメロン、ブドウ、ビワ、みかんなどの果物…。そしてワインの入ったグラスやビン、水差し、貝殻などの様々な生活の小物類が、レースの布が敷かれた台の上に整然とレイアウトされ、柔らかな光の中で心地好い存在感を持って見る者に語り掛けてくる。それぞれの物たちは、形も色もそしてデリケートな質感までも、極めて微妙で精巧なタッチでリアルに描かれていて、画面の中に本当にその物たちが存在しているかのように見えるのである。見た瞬間、誰もが「ハアー」とため息をついてしまう程の描写力。ある展覧会の会場では、「これは絶対写真だ。とんでもない。」と怒ったお年寄りや、「額縁をはずして見せてくれ」と迫られたことも…。

こんな絵を描く近藤さんとはいったいどんな人なのだろうか。数年来の思いを胸に、そのアトリエを訪ねた。

市内金杉7丁目。金杉三叉路を右に少し入った住宅地。閑静な木造2階建ての2階の6畳程の和室が近藤さんのアトリエである。部屋の中は様々な画材や書籍、道具類が四方いっぱいに積み上げられ、その真ん中の谷間のわずかなスペースにイーゼルがセットされ、座ぶとんが一枚ちょこんと敷かれている。近藤さんは毎日ほとんどここに座って、一日中絵を描いている。外に出るのが苦手。口数も極めて少なく、ただひたすら対象を追い求める。

片側の窓から、ガラス越しに柔らかな光がさして、イーゼルの左前方にセットされた、あの見覚えのあるモチーフを照らし出している。近藤さんのソフトな色使いとその光の印象がダイレクトに結び付いた。

「自分は下手だからこの様に描くしかないんです。コンプレックスの固まりなんです。もっと技術を身に付けたいんです。」ポソッポソッと出てくる細く数少ないその言葉には、強い自戒の念が込められている。対象をどこまでもじっと見すえるナイーブな視線も、自らには極めて厳しく向けられている。

近藤さんは小さいころから絵を描くのが好きだったが、大理石のモザイクの壁画の制作や、手描き友禅染など様々な仕事に取り組んできた。

絵画専門に制作を始めたのは12年前。船橋市展をスタートに、コンクール・デ・ポザール誌上展、読売アマチュア洋画展、銀座大賞展、ブロードウェイ新人賞展ほか数々の展覧会に次々と作品を発表し、入賞や作品買上など着々と活躍を続けてきた。

複雑な現代社会を解読するための絵や奇抜なアイディア、意味深げな雰囲気…。そんな新しい発想に背を向け、ただひたすら職人的であろうとする近藤さんの仕事ぶりに胸が熱くなる思いがした。

リアルでソフトな叙情性あふれる近藤さんの作品

サークル通信

みんなの広場

船橋鼓友連
海老川鷹匠橋付近

「一見簡単そうに見えますが、軽い気持ちで始めると続きませんね。最後までやり通す意気込みを持った人を待っています。」と代表の杉山さん。太鼓を始めて20年になります。練習は毎月第2日曜日に海老川のほとりでやっています。主に民謡太鼓で、全国の曲を手掛けています。祭りや盆踊り、イベントはもちろん、依頼があれば結婚式で披露することもあります。「ウチの太鼓は、踊りや曲にピタッと合うのが自慢です。それには自分たちの表現したいものを創造して努力することが大切です。」厳しい練習に裏打ちされた自信が感じられました。

（連絡先：杉山周治　☎23－3325）

福祉施設の慰問などにも力を入れていきたいですね

海老川での練習には力が入ります

◀なぎなたは相手に対して半身に構えるのが特徴

◀みんな楽しく真剣にけい古しています

季節に合わせたコース▶を回ります

◀11月の見学先、人形町の水天宮にて

浜町公民館 ちぐさ会

「なぎなたは年齢に関係なく、体力に合わせてできるし、健康にもとてもいいですね」と指導者の伊原さん。昭和56年に発足したちぐさ会では、現在20人の会員の皆さんが毎週金曜日にけい古に励んでいます。けい古は、一つひとつの技の正確さと敏しょう性を高める“打ち返し”、技を連係させた“仕かけ応じ技”、防具を着けての基礎、試合げい古と続きます。皆さんとても熱心で、今年の県大会級位の部で優勝した方もいます。「私たちの会は、和を大切に楽しくけい古しています。」50～60歳代から始める人も多いそうです。初心者大歓迎、あなたも仲間に入りませんか。

（連絡先：伊原啓子　☎66－5766）

東部公民館 史楽会

「小さな路地を歩いていると、そのまちの生活やにおいが感じられ、肌で人情に触れられるんです。また、古いものの中に、何か新しいものが発見できたりするんです。」と案内役の乙部さん。史楽会は毎月第1土曜日に東京の歴史的な建造物や下町を訪ね歩きます。日帰りの見学コースには老舗やおいしい食べ物の店も入っています。1日の見学で歩く距離が6～7kmなので、とても健康にいい。「見て、食べて、健康になって、毎月この会を指折り楽しみにしています。」と会員の皆さん。新会員を募集中ですが、現在18人の会員が30人になり次第締め切らせていただきます。

（連絡先：小林利男　☎72－7021）

ペットインタビュー

オハヨウ、コンニチハ。あいさつだってできるんだ

なまえ
キング
（キボウシオウム）

オーナー
高橋一城さん
（夏見6）

僕の名前はキング。出身は中米のホンジュラスという国なんだ。今から15年も前、ご主人のお父さんが気に入ってくれて、一緒にお船で太平洋を渡って来ました。ご主人もまだ3歳で、とってもかわいかったナー。今でもかわいいけどね。熱帯育ちだから、当時日本の冬はきつくて。でもみんな優しいから、2・3年はお家で一緒に寝てました。今は一人で立派に外で寝ています。好物はヒマワリ、そしてみかんにグレープフルーツ。だいたい家族と同じ物を食べられます。僕の自慢は、とっても器用なくちばし。ボールペンやライターのねじなんかチョチョイと分解できるんだ。それから口笛も。だから近所でも評判の人気者なんだ。アッ紹介するの忘れてたけど親友がいるんだ。チャンプと言ってシバ犬と秋田犬の雑種。今度みんなに紹介するね。

WE ARE IN FUNABASHI

ART 書

忙しくても充実した毎日です

荒木昌子さん（習志野台5）

茶道表千家教授の免状を持つ先生でもある荒木さん。「家がお寺だったこともあって、高校生のころから茶道を習い始めました。」結婚式に出席して受付で名前を上手に書けなかったことや、お茶会に使う掛け軸の字が読めるようになりたいと思ったのが書道を始めたきっかけです。10年程前、習志野台公民館で募集していた書道サークルに入会して以来、内田玉英先生の指導を受けているそうです。

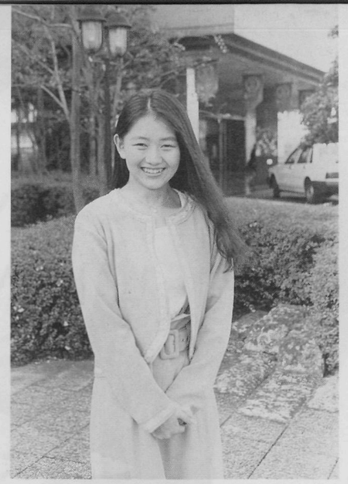
読売書法展に8回程出品し、昨年・今年と連続して入賞。現在は毎週水曜日に活動している墨の会で、内田先生の助手を勤めながら、褚遂良の枯樹賦に取り組んでいます。「仙厓の書が好きですね。」床の間にもその茶掛けが飾られて、書と茶道が生活の中にさりげなく融合されています。

充実した毎日を意欲的に過ごしている姿がとても印象的でした。

まいふぁっしょん

TPOに合わせて洋服を選んでいます

会田恵理子さん（豊富町）



淡いピンク系のカーディガンに、サーモンピンクのフレアのロングスカート。白いTシャツの胸元には真珠のプチネックレスというさわやかな装いの会田さんは、今年市内の百貨店に就職した社会人1年生。普段はGパンやキュロットにセーター姿が多いとか。「TPOに合わせて着るものを選びます。ピンクやブルー系の淡い色が好きですね。」買い物は主に船橋そごうやららぽーとで。「休日の楽しみはショッピングやドライブですが、運動不足なのでスイミングクラブに通いたいと思っています。」早く仕事を覚えたいという会田さん。夢はオーストラリアへ初の海外旅行に行くことだそうです。

あい・らぶ・ふなばし

日本語を学んでもっと日本を知りたいですね

山本ラウラさん（習志野台8）

「船橋は、緑が多くてとても住みやすいですね。」と話す山本ラウラさんは、南米コロンビアのご出身。13年程前に来日し、現在日本人のご主人と3人の男のお子さんの5人家族だそうです。「公民館の日本語教室に通っていますが、日本語は漢字が難しいですね。」と苦笑。日本食はなま物以外は何でもOK、特におもちが大好きだそうです。また、月に1・2回、メキシコやペルーから来ているお友達とお国の民俗舞踊を練習、色々なイベントに招かれて披露することもあるとか。

今年の夏には、お母さんと妹さんが初めて来日、日光方面を案内してとても喜んでくれたそうです。

「日本語をもっと勉強して、日本のことをもっと知りたいですね。」とラウラさん。お子さんのサッカーの話をするときは、とてもうれしそうでした。

お店

第二一の湯

南本町
☎0474(31)5441

毎月26日は「風呂の日」。皆さんも、近所のお風呂屋さんで温泉気分を味わってみてはいかがでしょうか。

ご主人の中村孝夫さんが経営する第二一の湯には、サウナはもちろん、カラオケや各種マシンを取りそろえたトレーニングコーナーもあり、ご近所の皆さんでにぎわっています。

洗いおけも、こだわりの木製です。

なかでも自慢なのは、地下300メートルからくみ上げているラジウム鉱泉。焦げ茶色のお湯は、冷え症や打ち身に効くそうで、じっくりつかると体の芯から暖まり、家に帰ってもホカホカしているそうです。

ご主人に銭湯の魅力をお尋ねすると、「湯船は広いし、いろいろ設備は整っているし、それに肩書きや世代を越えていろんな人と話しができるでしょう。心身共にくつろげる銭湯は、忙しい日本にぴったりですね。」

おすすめは、300円の背中流し。洗うだけでなく約10分の肩もみ付きで、一日の疲れもきれいさっぱりと洗い流してくれるそうです。

あとがき

◇グラウンド・ゴルフ、ターゲット・バードゴルフ、ソフトバレーボール、ラージボール卓球、バウンドテニス、インディアカ…。これらがどんなスポーツかご存じですか。すべて高齢者から子供まで楽しめるニュースポーツで、10月13～16日まで千葉県を会場に開催された「第6回全国スポーツ・レクリエーション祭」の参加種目です。船橋市もソフトバレーボールの会場となり、全国から集まった各県代表の皆さんが交流し、さわやかな汗を流しました。船橋では、スポーツ健康の祭典や色々なイベント会場で、ボランティアの皆さんの協力をいただいて、ニュースポーツの普及を進めています。「健康には関心があるけど、今さらスポーツなんて」と思っている皆さん。1月には総合体育館もオープンします。1994年をスポーツ健康の年ということにして、自分に合ったニュースポーツを見付けてチャレンジしてはいかがですか。

ジャンルにとらわれない作品展
美術集団スクエアNEW展

会員39人の大作がズラリ

10月6～11日まで市民ギャラリーで、美術集団スクエアNEW展が開催されました。この団体は、市内を中心とする絵画、写真、工芸、生け花など様々な分野の芸術家の皆さんの集まりです。意欲的な大作が勢ぞろいした新しい作品展に連日多くの皆さんが訪れました。

第12回 囲碁の都市対抗戦 船橋市・千葉市市民親善囲碁大会

クラス別に分かれての対抗戦。実力が伯仲しているだけに碁を打つ手にも緊張感が

試合に先立ち両市の選手団を代表して選手宣誓が行われました

10月３日浜町公民館で、船橋市と千葉市の市民親善囲碁大会が行われました。囲碁を通して両市の親睦を深めようと大橋・松井両市長の発案で始められたこの大会も今年で12回目。当日会場には、朝早くから280人を超える囲碁ファンが集まりました。

大会には両市長も参加し、４クラスに分かれての対局となりました。１人３試合で５時間半にも及ぶ熱戦が繰り広げられ、船橋市182勝、千葉市176勝と船橋市が辛勝。この結果、両市の対戦成績は船橋市が７勝、千葉市が５勝となりました。

表彰式では、３戦全勝した方や健闘した皆さんに、両市長から記念品が手渡され、大きな拍手が会場を包んでいました。

スポーツで健康ふなばし こんにちは…

市立船橋 女子第５回全国高校駅伝(5年連続) 全国高校サッカー選手権(2年ぶり7回目) に出場！

２区の水内選手から３区の田辺選手にトップでタスキが渡る

11月２日、千葉県総合運動場外周コースで、女子第５回全国高校駅伝競走大会の県予選が行われました。58校が参加した今大会、昨年全国制覇した市立船橋高校女子陸上部は、５人全員が区間賞で５年連続優勝を果たしました。また11月21日、市原市の臨海競技場では第72回全国高校サッカー選手権の県大会決勝戦が行われました。昨年の雪辱に燃える市船イレブンが、過去８年間千葉県の王座を分け合った市立習志野高校と対戦。延長戦の末２対1で勝利を収め、２年ぶり７度目の全国大会出場を決めました。

全国高校駅伝は、12月26日師走の京都で行われます。全国高校サッカー選手権では、大阪代表の高槻南高校との対戦（１月３日）が決まっています。皆さんのご声援をよろしくお願いします。

前半８分、先制ゴールを決めた森崎嘉之選手